

ニュース光

第172号

2024年6月30日

発行所

祇園カトリック教会

信徒会

hikari@gionkyokai.jp

シノドスの教会になるために

～2024年度活動方針～

主任司祭 李 相源神父

広島教区の10年間（2024年～2034年）の長期宣教司牧の目標として「ともに歩むあたたかさのある教会をめざそう」というテーマが設定されています。3年毎にも中間目標が設定され、2024年からの3年間の目標は「あたたかさの源泉に立ち帰る」（典礼活動）というテーマになります。

これに向かうチャレンジとして、祇園教会の7つの地区からの提言をもとに、以下を今年の活動方針にいたします。



①すべての人への「合理的配慮」（二人での生活が困難になった信徒に対するアドバース、高齢等で教会に足を運べなくなった信徒へのアプローチ、教会内での不便の軽減）

②地域に開かれた教会（信徒会館の名称変更等）

③多文化共生の教会（教会行事を通しての共同企画と相互の融合、外国籍の方の会議参加の勧奨）

④信徒の養成（典礼に関する学習、「霊における会話」の実施等）

カトリック可部巡回教会 可部集会所へ



【1991年献堂の2代目 可部教会】

53年余りの長い歴史の可部カトリック教会（巡回）が、今年の3月31日をもって可部集会所となりました。多くの想い出のもと歴史を振り返ってみます。

1939（昭和14）年、可部地区にて布教活動が開始された。1960（昭和35）年頃から毎月1回石井昭三さん宅で、ロザリオ会が開かれた。1965（昭和40）年可部地区会が発足した。1970（昭和45）年12月から待望のミサが石井さん宅で実現した。1971（昭和46）年可部地区の信者数が130人を超えた。6月25日可部巡回教会着工（石井さ

んの納屋）。8月15日完成。初ミサ。2人の幼児洗礼。9月19日野口司教による祝別式により初代教会が誕生した。その年の10月より第1・第3日曜日、第2・第4・第5土曜日にミサが始まった。それに聖書のお話が毎週2回開かれた。

（次頁につづく）



※初代可部教会※

ぎおん 5198

教会から帰る時、李神父様に「失礼します」とご挨拶すると、神父様は大きな声で「いつてらっしゃーい！」（日本語間違えられた？）私は「いつてきます？？」と、も「も」。何度かの繰り返し、信仰の薄い私もやっと気が付きました。神様の子どもにしていただいた者にとつて、教会はもう一つの我が家であり、大事な居場所。そこから出かけていくのだから「いつてらっしゃーい」「いつてきます」なのですね。▼義理の父は、孫たちが出かける時、「いつてかえり」と声をかけてくれます。そして運転していた車には、孫がブロックで作った夫婦蛙（帰る）が乗せられています。お互いに、無事に帰ってきてねと思いが合って。▼帰るのが久しぶりの方にとつても、日々帰られている方にとつても、祇園教会が「ただいま」と、ほっこりした気持ちで帰れる家でありますように。神様、神父様、そして皆さんお互いの「おかえりなさい」が聞こえてくることでしょう。